

日刊建設通信新聞：2018年12月17日2面記事



日本建築積算協会（吉田俣郎会長）は、国際的に共通の発注者目線を持つ建設コスト分類システム『ICMS（国際建設測定基準）』第1版の日本語版『写真』をホームページ（http://www.bsij.or.jp/pdf/ICMS\_Japanese%20BSIJ.pdf）に公開した。建設コストの一貫性が透明性ある国際比較やプロジェクト間のコスト差異原因の特定、信頼性あるデータ活用と資金調

積算協会

日本建築積算協会（吉田俣郎会長）は、国際的に共通の発注者目線を持つ建設コスト分類システム『ICMS（国際建設測定基準）』第1版の日本語版『写真』をホームページ（http://www.bsij.or.jp/pdf/ICMS\_Japanese%20BSIJ.pdf）に公開した。建設コストの一貫性が透明性ある国際比較やプロジェクト間のコスト差異原因の特定、信頼性あるデータ活用と資金調

この第1版では、建物と土木構造物の新設時の資本投下に対するICMSは、40カ国以上の職能団体と専門家グループで構成するICMASC（国際建設測定基準連合）とICMS基準策定委員会が開発。各国の積算基準や商習慣が異なる中、費用の表

発注者目線のコスト分類システム

は自国の分類基準を準用可能としている。コストのプランニングやコントロール、分析、モデリングなどのプロジェクト作業のほか、保険利用による原状回復費用や紛争解決の作業、国内外のコスト比較による事業採算性・開発価値評価などグローバル投資の意思決定、資産と負債の価値評価などに活用できる。

日刊建設産業新聞：2018年12月17日2面記事

世界初のコスト分類国際基準 国際建設測定基準（日本語版）を公開 日本建築積算協会

日本建築積算協会（吉田俣郎会長）は、国際的に共通の発注者目線を持つ建設コスト分類システム『ICMS（国際建設測定基準）』第1版の日本語版『写真』をホームページ（http://www.bsij.or.jp/pdf/ICMS\_Japanese%20BSIJ.pdf）に公開した。建設コストの一貫性が透明性ある国際比較やプロジェクト間のコスト差異原因の特定、信頼性あるデータ活用と資金調

建通新聞：2018年12月18日3面記事

BSIJが日本語版ICMS公開 分類システムで一貫性のある国際評価 日本建築積算協会（BSIJ、吉田俣郎会長）は、国際建設測定基準『ICMS（The International Construction Measurement Standards）』の日本語版を作成し、ホームページ上で公開を始めた（http://www.bsij.or.jp/pdf/ICMS\_Japanese%20BSIJ.pdf）と写真。これはICMS連合が発注者目線で開発したコスト分類システムで、建築の他道路や鉄道、橋梁、プラントなどの土木プロジェクトも対象に、4段階の階層別コストで建設コストを管理する。プロジェクトの費用を事業費ベースで明らかにする。類似プロジェクトを比較して自己評価を算定する際や保留

日刊建設工業新聞：2018年12月21日24面記事

日本語版ICMSの表紙 ICMS 国際建設測定基準：建設コスト提示の国際規格

ICMS日本語版を作成

日本建築積算協会（吉田俣郎会長）は、世界40カ国以上の建設関連団体で組織する国際建設測定基準連合（ICMASC）がまとめた国際建設測定基準（ICMS）の日本語版を作成した。土木・建築を問わず新設時のコストを世界標準のルールで算定するのに役立つ。同協会は、積算に携わる国内企業が海外プロジェクトに参画する際の参考書として活用を呼び掛けている。

計など発注者が負担する費用算定にも貢献できる。17年に公開された英語版を積算協会の国際委員会（橋本真一委員長）が日本語訳として作成した。13日に東京都内で会見した吉田会長は「日本語版が完成し、より社会に貢献できると確信している」と述べた。同席した橋本委員長も「ICMSは発注者がより安心して投資できるツール。今後は発注者目線でコストを算定できる」と期待を寄せた。今後は維持管理にまで広げた日本語版づくりにも着手するとい